市仏連会報

発行所
横浜市中区大平町96
光明山西有寺内
横浜市仏教連合会
電話045（661）0166

市仏連会長挨拶

観音寺住職　柳下隆侃

本年度市仏教連合会総会に於て「仏教より見たマスコミについて」と題し、元NHK研修所長の摩尼清之僧正よりマスコミで報道出来ない色々の問題を話していただきましたが、参考になる点が多く誠に有意義でありました。

昨年は会員の奥さんが庫裡火災の為焼死された、いたましい事故がありました。皆様方と共に心からご冥福をお祈り申しあげます。

扨て会長就任以来各区仏の総会及び諸行事にお招きいただき親睦交流を深めると共に、其の活動と熱意とに頭のさがる実態に接する事が出来ました事は感謝に耐えません。

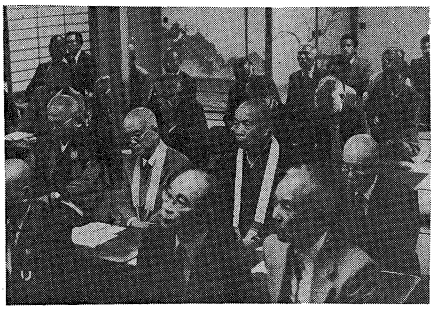
目的一つに向って一致協力して専念邁進する姿は誰が何処で見ても美しく尊いものであって、仏教興隆の為に今後共一層のご精進を期待致します。

イランとイラク、イスラエルとアラブとの戦闘は平和を叫ぶ方々が自分達の宗教以外を敵視して欲望のみまる出しで闘っている姿に宗教とは何か、根本にかかわる疑問を考えさせられます。

ひるがえって私共の身のまわりに於ても、世上ややもすると「現在の坊主は葬式屋に堕ちて、坊主の役目を果していないから……」と放言する俗人が多く見受けられます。然し乍ら相信徒の冥福を祈り、心から追善回向をして日々菩提を弔うことは何と尊く大切なことではありませんか。ただ同行の中に修行と謙譲を忘れ脚下照顧することなく、慢心と我執の為に相信徒からも指弾される方を時折り見聞きすることは誠に残念であります。

今は昔と違ってお互い寺院住職は公私共に色々な役職をもって、活動しておられます。此の時こそ自分の行動に責任を持ち和合僧として仏教興隆に努力を傾注しようではありませんか。

本年度は横浜市釈尊奉賛会の育成と充実に施策の重点を置きました。会員の皆様方のご協力を切にお願い申し上げまして挨拶と致します。



横浜市仏教連合会 総会報告

去る六月二日、後二時より第九回横浜市仏教連合会総会が西有寺客殿に於いて開催されました。之に先立ち来会者一同当寺御本堂にて釈迦牟尼世尊御宝前にて妙法蓮華経普門品偈を諷誦し市内遷化の御先聖各位の追福に資し終りまして同二十分客殿に移り私の開会の挨拶にて総会を開きました。出席者は例年の如く甚だ少数にて三十余名。柳下会長挨拶にて「昨年始めて本会々長となりましたが様子がわからず何事も控へ目にやって参りました。今後はもっと重点的に行事を進めたいと思います」とのお言葉でした。議長に旭区三仏寺住職吉川哲雄師（保土ケ谷旭区仏教会々長）をお願いし型通り五十六年度事業報告、参加行事報告収支決算書の承認を得、五十七年度事業計画案、参加行事計画及予算書の決定を頂き会議を終了致しました。午後三時より一時間に亘り港北区太尾町歓成院御住職にして高名なる社会事業家摩尼清之師の御講演、題して「仏教より見たマスコミ」を、その頃来会者四十有余名となった一同と共に興味深く拝聴し五分間休憩の後、引続き横浜市釈尊奉賛会の定期総会に移りまして同午後五時、円満裡に終了致しました。会員の各位には、「どうせ同様な意見が多いのだから出席しなくてもよいだらう」との御心から毎年出席者が僅少なのだろうとの御意見でしたが、どうか皆様多数御来会の上各位の御高説を拝聴致したいものと考へてます。尚本日の御協議により明年度（昭和五十八年度）よりは会費一ケ寺一年一千円を千円値上げ、合計二千円となりましたのでよろしくお含み下さい。

横浜市仏教連合会副会長　佐藤泰心

暑中見舞

横浜市仏教連合会

名誉会長　乙川瑾映
顧問　志村慎吾
参与　柴田敏夫
参与　福永隆昭
参与　横山敏明
会長　柳下隆侃
副会長　佐藤泰心
副会長　森山正城
専務理事　玄野孝善
会計　内野公雄
墓地専門委員長　佐藤寿応
税務研究委員長　山本芳昭
監事　吉本十三
野沢隆幸

第七回釈尊涅槃会記念講演

生きるよろこび

真言宗智山派前宗務総長
法光寺住職　別所弘因僧正

私は昭和三十一年に釈尊滅後二千五百年と云うことで、ネパールで開催された世界仏教徒会議に出席しました。今とは異り多くの面で苦労もありましたが、仏陀の聖地にお詣り出来たことは大変幸せなことだったと思います。

更に外国に行くことは、自分の国を見直すことも出来ます。珍しい文化、風物、人情にふれて勉強にもなりましたが、ひるがえって日本の国を見ると、こんなに有難たい国はないとしみじみ感じました。国は繁栄して自由はあり、毎日恵れた生活を楽しんでいる国民がどの位世界にいるでしょうか、それでも尚、不足不満だと云うならば、これは必ず罰が当ります。私はインドへ行ってしみじみそれを感じました。一寸田舎へ入ればまだローソクがあるかないか、ランプ、電気などは殆んど大きい街でなければ使わない、日本の約九倍、住んでいる人六億五千万位でしょう。それも正確な数は把握出来ない、夜は暗くなれば寝てしまう、明るくなれば働く、しかも畑を耕す人がいればその隣は鶏がひよこを連れている、野豚がそこで飼を食べている、馬がいる、牛がいる、大地に生れて全部が一緒に生きている姿。この時に私は人身受け難し今すでに受く、この言葉を私はしみじみと考えました。ああ自分達は人間に生れたのだなあ生きているものは鶏もいる、犬もいる、馬身もいる、牛身も豚身、猿身もいるよ、いろんな姿の生きものがいる、その中で、人身受け難し今すでに受く、と云うこの言葉は大地の上に全ての生き物が同じように生きている、それは動物だけでなく植物も、きれいな花が咲いている、こちらでは稲をこいでいるかと思うと他では小麦が穂を出している、広大な荒野の中にその大地に抱かれている。又生きている姿、生活は決して恵れていないが、ゆ[illegible]うとしてい[illegible]のんびり落着いていて他を知らない世界に生きているのと比べ、日本の国の様に文化文明と云いましょうか生活が合理化され、全てが楽になる、スピードアップされる、そして尚忙しい忙しいと云って、何かに追いまわされて心にゆとりと云うものはない、後から鞭でおいまわされている牛のような甚だしく走り廻っているのとどちらが幸せなのだろうか、考えさせられます。今日は涅槃会でございますが私は涅槃像をお詣りする度に私の師匠が私の小さい時に、「これ見よと、示し給うや涅槃像」と云う句があるんだよと教えてくれました。

毎年二月十五日、お寺ではお釈迦様の涅槃像の軸を掛けて、お釈迦様が柔和な顔をしてお休みになっており、まわりにはありとあらゆる生き物が別れを惜しんで泣いている物の生命を大事にされたお釈迦様或いは偉大なる教えを説かれ、私達に仏となる喜びを与えて下さったお釈迦様との別れを悲しんでいるこの姿、どんな偉大な方でも、これ見よと、示し給うや涅槃像、やがて行く道なのだ、やがて行く道とはかねてききしかど、昨日、今日とは思わざりけり、と云う句があります。やがて行くのだ、ここのところ陽気が悪いので、ばかに亡くなる方が多い、しかも年の順ではないのです、何時誰が呼び出しを受けるかわからない、しかもこの頃ばかに急な呼び出しが多いこと、用心々々。

自分の体は自分が一番よくわかっている、自分の体に対しては自分が責任をとる。生れてからの付き合いですから弱いところ、丈夫なところ、足りないところ、勝れているところ、自分が一番よく知っている訳です。それを人まかせにして、お医者さんが悪いとか家族が悪いとか、とんでもないことで、自分の健康は、自分の体は自分で管理しなくては無責任になる、それ以上のことは専門的なことですので別ですが、病気で死ぬのではない、人間は寿命で死ぬのだと云われています。年と云うものは、取るのではなく、取るならば取らなければ寄ってこない、年寄りと云って、自然に寄って来てしまう。だから逃げようにも逃げようがない、ずっと寄ってくる、しわが一つ寄り二つ寄り、いくら松坂慶子がしわがないだろうと、そんなこと云ってもだめです、自分の顔を見てしわがのびる顔だの云っても寄ってくる、その寄ってくるところに、だんだん貫録と美しさが出てくる。若者に持っていない貫録と磨き上った年輪とその重みは一日や二日では出来ません。ですから美しく老いていく、年相応に年をとることが一番私は健康ではないかと思います。

お釈迦様はお弟子を連れてガンジス河のほとりに行きました。そして、一つかみの砂を手の上にのせて弟子達にこのガンジス河のほとりの砂と、私の手の平にのった砂と一体どちらが多いか、わかるか弟子達は、手の平にのった砂は大きなガンジス河の砂に比べればごくわずかなもの[illegible]でございますと申された、その通りなんだ、丁度私達が人間に生れた、他に沢山の生きものがいるけれども、人間に生れたと云うことは丁度この手の平の上にのった砂のようなものだよ生き物の中でわずかなものなんだよ、こんな幸せなことはない、生れようとしてもなかなか人間に生れられるものではない人間は何が尊いのかそれは智恵、考える力、この智恵と云うものがあるから尊いのだ、更にお釈迦様はこの砂を爪の上にのせて、ではこの爪の上の砂とどちらが多いか、勿論爪の上の砂はごく わずかでございます。その通りだ今皆が仏の法にあうことが出来たと云うのは本当にこの爪の上にのっている砂のようなごくわずかのことで、こんな尊いことはない。百千萬劫難遭遇、「人身受け難し、今己に受く、仏法聞き難し、今己に聞く、この身今生においてかこの身を度せずんば、さらにいずれの生においてか度せん、大衆諸共に至心に三宝に帰依したてまつるべし」

昔の人、各宗祖師の方々がどれ位真剣になって中国、インドへ行こうとなされたか、これは尊いお釈迦様の教えを求めて歩かれている天平の甍と云う映画があった、鑑真和上は法のためには命はおしまないといった素晴しい映画だった。何回も計画したが坐折して六回目にようやく日本へ来ている、しかしその時にはもう目くらになってしまった、目が見えないそれでも法のために、法を受けたいと云う者のためには命をかけて渡海

している、そして唐招提寺を開かれたのであります。画家東山魁夷先生が和上よ、和上は日本に着かれた時は、風光明媚と云いますが日本の美しい山河、この海もごらんになれなかったでしょうが私が書いて和上にお送りしますと云って沢山の襖絵を書き永久に和上よご覧下さいと、東山先生の温かい心ずかいがうかがわれます。

お釈迦様が最初に説法なされたところはベナレスの鹿野苑と云う所で、そこでは因縁と云う縁起と云うこと、この世は一人あるのではない、この世のものは総て移り変る、ただ心の悟り、心の自由、解脱と云うことだけが無上の喜びである。

我々は多くの人のおかげによって充たされている、その生きる尊さと喜びと云うものを忘れてはならないと説いておられる。そして五十年間各地を廻られ、八十才でクシナーラに於いて、これ見よと示し給うや涅槃像、沙羅双樹の林の中にお袈裟をしいて横になられてお前達とお別れなんだよと云って別れを惜んだ。その時弟子達はもうお釈迦様が死んでしまったら、この世は闇だと申し上げますと、何を云うのかお前達は逢ったものは別れるのだ、いとしい人とも別れるんだよ、逢って別れないと云うことがあるか、全て移り変って行くものだと弟子達に説かれている。涅槃とは、ふっとローソクの灯が消えてしまった様な状態がくる、諸々の悩みが吹き消されたと云うことです。死んだ人は何の執着もなくなるでしょう。もう何ものにもとらわれない、もし種々の煩悩を抱いて死ぬならば、そんな不幸なことはない、本当に私はやるだけのことはやれてよかった、有難いなあと手を合わせて「客に来た者帰るが道理、味の都のふる里に」と云う句がある、お客に来ているんだから我儘出来ないのだ、やがて時期がくれば土産を沢山もって親元へ帰ってくるんだよそこはお釈迦様が待っていてくれる、だから、やるだけのことはやったと云う満足感、恨みもない、愛しみだけ、ああ沢山の人に親切にされて有難度かった、と云うあのお顔がお釈迦様のお顔がもう自分は説くだけのことは説いた何の心のこりもないんだと弟子達に云っている、ただお前達は努めるんだ励むんだよ、命の限り励むんだよ、私の教えは不滅なんだ、それを道しるべにしなさいと同時に自分と云うものを粗末にして他人を頼ってはいけない、ただよく整えられた己こそ、又、自分こそがよるべきなのだ、だから手を合わせることを忘れてはいけない、手を合わせると自分の温もり自分を感ずる。こんな暖かい手をしていたのだろうか、今日は冷たい、自分で自分の体温を味合えるのは手を合わせることです。お釈迦様は頭北面西と頭を北に顔を西にして休んでいるそれが一番健康な休み方です。

最後にこんなお話しがありました。あるお医者さんの家庭で、目に入れても痛くない様な一人娘が急に帰れぬ病にかかって、もう絶望になった時、お父さん私は一体死んでどこへ行くの、今までそんな事を考えたこともなかった。お父さんは何の返事も出来ないで娘を死なしてしまった、本当に申し訳ないことをした、親として資格がない、それから非常に仏道を修行しまして、こんな有難度い教えがあったのに自分は自分の力を過信して経済的方面に頼りすぎて一番大事なこと、安心を子供に与えることが出来なかった親として申訳なかったと悔いた話がありましたが、皆様はもう帰る我家を持っておられますか、自分はいざと云う時にはこう云う所へ行って心安らかにお迎えをうける、本当に心安らかなんだ、それが出来ていないと生きる喜びは出来ません。それは先ずお仏壇を大事にする生活、受けた恩は石にきざめ、かけた情は水に流せ、そうすれば恨みのない世界が出来るお釈迦様は涅槃像で私達に永久に示されております。皆様方はこうした尊いご縁によって、お釈迦様や菩提寺のお和尚さんとご縁を結んでいるのですから、呉々もご精進を、自分もやるだけのことはやって、さあそろそろ花道をひき上げるかと云う、ゆとりある最後であってほしいと心からお祈り致します。

（文責　森山）

講演

『仏教から見たマスコミ』

高野山真言宗 歓成院住職
元NHK中央研究所 所長
摩尼清之先生

皆さんはテレビ、新聞、雑誌等をよく御覧になっていると思いますが、この世界は、マスコミのかたまりであります。そのマスコミの裏側を今日は、特にお話しをしてみたいと思います。

これからはマスコミが益々発達し、私達もかき回されてしまいます。結論的に申しますれば、正しい仏教の信仰を持たないと、マスコミ公害にかかってしまいます。

そこで仏教とマスコミの性格の違いを申しますと、人間には心のはたらきに感性、理性、智性、悟性等がございますが、マスコミはその内の感性を主としておりますが、仏教はこれら全て、総合的に理念があるところに違いがございます。即ちマスコミは部分的なことなのであります。

マスコミは人間の感性をつかんで商売をしていますが、その内の好気心と本能にうったえて効果を上げているのです。映画、テレビ雑誌は人を引き付けるには、これが一番なのです。よって皆さんはその刺激を受けて、ものを見る、買うをしてしまいます。新聞でさえ、好気心のある問題、話題にのぼりそうなものを大きくとりあげお互いに競っております。それは全て営業第一であるからであります。日本の三大新聞であっても、営業がなりたたない記事や、収益のさまたげになる記事は、例え内容がよくても、カットしてしまいます。ですから自ずと正しい報道は出来ないのであります。現代のマスコミは、根底に営業第一でありますから内容的な問題より、皆さんが、関心をよせてくれるものを優先してしまいます。

現代社会の我々に、毎日毎日このようなものをおしつけられておりますと、私たちは、次第に異常な精神を持つ人間になってしまいます。子供さんはなおさらの事だと思います。人間であって人間でない精神を宿した人間が、でき上ってしまいます。では一体、これをどうしたらよいでしょうか。

これは宗教、特に仏教の教えにすがる他はないのではないかと私しは思います。

こうなりましたのは、現代の科学文明の行きすぎと、人間自己の智性の過信ではないかと思います

よって人間でない人間が誕生しそういう人間が、これからの世を支配する社会になってしまいましたら、これは大変恐ろしい事だと思います。私たちは、原点にかえって、もう一度正しい仏教の教えを信仰して、マスコミにまけない人間にならなければと思います。

横浜市仏教連合会　昭和56年度収支決算書

総括表
- 収入金　784,799円
- 支出金　447,730円
- 差引額　337,069円

(自 昭和56年4月1日～至 昭和57年3月31日)

収入の部

科目	予算額	決算額	△増減
① 会費収入	413,000	443,000	30,000
1.会費	413,000	443,000	30,000
鶴見区	36,000	36,000	0
神奈川区	30,000	30,000	0
港北区	57,000	57,000	0
緑区	40,000	40,000	0
西区	29,000	29,000	0
中区	23,000	23,000	0
保土ケ谷・旭区	28,000	28,000	0
南・港南区	57,000	57,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
金沢区	26,000	26,000	0
戸塚区	60,000	90,000	30,000
瀬谷区	8,000	8,000	0
② 雑部金	360,000	319,000	△ 41,000
1.雑入金	60,000	55,606	△ 4,394
2.寄附金及繰入金	300,000	263,394	△ 36,606
③ 過年度収入金	0	0	0
1.会費	0	0	0
④ 前年度繰越金	22,799	22,799	0
1.前年度繰越金	22,799	22,799	0
収入合計	795,799	784,799	△ 11,000

支出の部

科目	予算額	決算額	△増減
① 総務費	200,000	150,020	△ 49,980
1.事務費	50,000	98,000	48,000
2.事務渉外費	30,000	13,000	△ 17,000
3.通信交通費	120,000	39,020	△ 80,980
② 需要費	150,000	42,960	△ 107,040
1.会議費	100,000	19,960	△ 80,040
2.慶弔費	50,000	23,000	△ 27,000
③ 事業費	340,000	219,750	△ 120,250
1.税務墓地委員会費	20,090	0	△ 20,000
2.涅槃法要費	130,000	51,750	△ 78,250
3.会報発刊費	140,000	1680000	28,000
4.奉讃会事業協力費	50,000	0	△ 50,000
④ 助成金・負担金	85,000	35,000	△ 50,000
1.助成金	70,000	15,000	△ 55,000
2.負担金	15,000	20,000	5,000
⑤ 雑支出金	11,000	0	△ 11,000
1.過年度支出金	10,000	0	△ 10,000
2.雑支出金	1,000	0	△ 1,000
⑥ 予備費	9,799	0	△ 9,799
1.予備費	9,799	0	△ 9,799
合計	795,799	447,730	△ 348,069
次年度繰越金			

上記決算書に間違いありません。

監査　吉本十三 ㊞
　　野沢隆幸 ㊞

昭和57年4月23日

上記のとおり収支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会　会長　柳下隆侃

横浜市仏教連合会　昭和57年度歳入歳出予算書

総括表
- 歳入金　1,050,069円
- 歳出金　1,050,069円
- 差引　0円

(自 昭和57年4月1日～至 昭和58年3月31日)

歳入の部

科目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 会費収入	413,000	413,000	0
1.会費	413,000	413,000	0
鶴見区	36,000	36,000	0
神奈川区	30,000	30,000	0
港北区	57,000	57,000	0
緑区	40,000	40,000	0
西区	29,000	29,000	0
中区	23,000	23,000	0
保土ケ谷・旭区	28,000	28,000	0
南・港南区	57,000	57,000	0
磯子区	19,000	19,000	0
金沢区	26,000	26,000	0
戸塚区	60,000	60,000	0
瀬谷区	8,000	8,000	0
② 雑部金	300,000	360,000	△ 60,000
1.雑収入金	100,000	60,000	40,000
2.寄附金及繰入金	200,000	300,000	△ 100,000
③ 過年度収入金	0	0	0
1.会費	0	0	0
④ 前年度繰越金	337,069	22,799	314,270
1.前年度繰越金	337,069	22,799	314,270
合計	1,050,069	795,799	254,270

歳出の部

科目	予算額	前年度予算額	差引増減△
① 総務費	200,000	200,000	0
1,事務費	50,000	50,000	0
2,事務渉外費	50,000	30,000	20,000
3,通信交通費	100,000	120,000	△ 20,000
② 需要費	130,000	150,000	△ 20,000
1.会議費	100,000	100,000	0
2.慶弔費	30,000	50,000	△ 20,000
③ 事業費	620,000	340,000	280,000
1.税務墓地委員会費	20,000	20,000	0
2.涅槃法要費	200,000	130,000	70,000
3.会報発刊費	200,000	140,000	60,000
4.奉讃会事業協力費	200,000	50,000	150,000
④ 助成金・負担金	60,000	85,000	△ 25,000
1.助成金	40,000	70,000	△ 30,000
2.負担金	20,000	15,000	5,000
⑤ 雑技出金	0	11,000	△ 11,000
1.過年度支出金	0	10,000	△ 10,000
2.雑支出金	0	1,000	△ 1,000
⑥ 予備費	40,069	9,799	30,270
1.予備費	40,069	9,799	30,270
合計	1,050,069	795,799	254,270

昭和57年6月2日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出いたします。

横浜市仏教連合会　会長　柳下隆侃

支部だより

鶴見区仏教会

昭和二十三年以来毎年開催されている「鶴見区花まつり」が本年は寺尾地区の宗泉寺さんを会場として四月六日午後二時より盛大に催された。

これは鶴見区仏教会が鶴見区釈尊奉讃会との共催にて、鶴見区内寺院を八ブロックに分け、持ち回りで会場をきめ、各寺院から奉讃会員を集め、仏教会員の出仕によって奉修されたものである。

当日は好天に恵まれ、鶴見区選出の県会市会議員、地元町会長らも顔を見せ、近所の子供やママさんたちも参列、鶴見区仏教婦人会の方々もお手伝いされ、午後二時書院より奏楽を先頭に、導師（宗泉寺住職）副導師（区仏会長）それに仏教会会員の寺院住職らが行列をつくって入堂した。

主催者側のあいさつがあったあと、オルガン伴奏にて讃仏歌のなか、浄土宗の詠唱講の方々により献灯献香献華献供献茶が行われ、三帰依文をパーリ文にて唱和、続いて仏教会おつとめ次第（昭和四十六年に制定）によって読経、花まつり和讃が奉詠され、法要終了後、堂内外を埋めつくした相信徒に、区仏会員で高野山金剛峯寺着宿の寿山良知師の法話があり、参加者には甘茶や甘酒などが接待された。

神奈川区仏教会

◎昭和五六年度会務報告（六月五日県慰霊堂法[illegible]に浄土宗[illegible]員出仕一月廿日新年会田中家にて、四月二日相応寺水谷雲海師本葬）

◎昭和五六年度会計報告（収入四八四、二九三円、支出四七一、七六〇差引次年度繰越一二、五三三円）

◎任期満了による役員後任は全員再任された（会長山本芳昭、副会長黒多良弘・板垣禎一の各師）

◎会費（一般五千円が七千円、収益事業を営む寺院七千円が一万円に増額）

◎収益事業、給与の申告についての説明が行なわれた。

西区仏教会

西区仏教会では毎年歳末助け合い募金を行い施設に送っていますが、一昨年の募金に対して昨年十月全国共同募金会長、神奈川県知事横浜市福祉協議会長から感謝状を受けた。

十二月には全寺院のご協力により募金を行い施設に寄付した。

本年一月新年会を兼ねて臨時総会を開いた。

今年の花まつりは三十回目に当るので西公会堂で区内全寺院教会のご協力により盛大に行った。法要灌仏のあと柳下市仏会長の祝辞田島海義師の法話を頂いた。

第二部として願成寺ばらの幼稚園児による遊戯があり、そのあと浜芸能社による演芸があり盛会裡に終了した。

尚、稚児多数で藤棚商店街を行列し花まつり三十回記念大会に花を添えた。

瀬谷仏教会

例年一月新年会、五月、九月会合、十二月忘年会を開催して、和気あいあいの会を、執り行って居ります。

五月上旬、乃至中旬に区内徳善寺山内に安置せらる忠魂碑の御前に於て、瀬谷忠霊顕彰会主催の慰霊法要を虔修し、仏教会より生花を供え法要の後、徳善寺住職尾崎正慎師、法話を致し御遺族を慰めて居ります。参拝の方々は。顕彰会会長を始、役員、御遺族の方々を含めて、百五十人位、参列して法悦の涙にむせんで居ります。法要の時も、会合の節も必ず世界の平和と国運の隆昌と、全国仏教会の発展と会員各位、御健康と御多幸を心から御祈念申し上げて居ります。

歳末助け合い運動として、代表が区役所へ行き、区長さんと会談をし、金一封を寄進して居ります。

戸塚区仏教会

一、花まつり　於雲林寺

恒例の花まつりは、四月八日午後二時法要開始の御詠歌を交え、仏教会長挨拶に引続き法楽の若泉流徳寿会社中による日本舞踊、就中出演の小学生に満堂の参詣人は惜しみない拍手を送った。終って祝宴。当日早朝小雨あるもその後曇、昼頃より幼稚園児、小学生、母親に付きそわれ参集、二〇〇人前の風船・宝冠・菓子等のおみやげ品もまたたくまになくなり、本堂は立錐の余地もなく、盛大裡に終了す。

二、戦没者慰霊祭

四月二五日十時より、忠霊塔前にて行はれた、恒例の戸塚区戦没者慰霊祭に、仏教会として奉仕す。

三、その他の予定

イ、毎年七月一日～七月三一日全国的に行はれる「社会を明るくする運動」に参加

ロ、八月盆終了後柏尾川にて行はれる「川施餓鬼灯篭流し」に参加協力。

ハ、昭和五十八年二月県慰霊堂例祭に参加奉仕

ニ、その他県仏、市仏連行事に参加

金沢区仏教会

◎一月二十六～二十七日　一泊二日の行程にて金沢区釈尊奉讃会並びに金沢区仏教会共催による伊豆国七福神初詣を開催、多数参加者あり、盛会裡に終る。

◎二月十五日　於金沢区洲崎町竜華寺にて、涅槃会厳修する。

◎三月七日　於金沢区町屋町伝心寺にて金沢区戦没者慰霊祭を多数の遺族を招き盛大に厳修する

◎四月五日　花まつり金沢区仏教会主催

釈尊奉讃会後援のもとに釜利谷町正法院を出発会場として、鼓笛隊を先頭として百余名の稚児行列、白象を乗せた車と続き約一キロ半の行程を満蔵院本会場に向い盛大裡に終った。

◎四月五日　横浜市慰霊堂にて当番奉仕法要に参加する。

◎四月二十八日　釜利谷町東光禅寺本堂、入仏落慶法要、大本山建長寺管長猊下を大導師とし県仏教会長貝山宣泰老師、市仏教会長柳下隆侃僧正、区仏教会長須方智証を来賓として招き厳修さる。

磯子区仏教会

一、月例会　毎月会員寺院順次会所を受持ち無尽を行う。主に諸連絡と親睦

一、税　務　毎年度六月、十二月に会計士を招き税務相談と書類の提出

一、旅　行　年一回一泊懇親旅行会

一、運営費　無尽会の残額を会の運営費に充当、各仏教会費及び当会の事業、事務費に当てる。

一、特別事業　年末助け合い運動実施、十二月に托鉢を予定

一、その他　理事会又は総会で承認された事業を行う。

お願い

釈尊奉讃会々員の増強をよろしくお願い致します。

本会役員名簿

各区仏教会選出の本会役員左の如し

名誉会長
乙川瑾映（鶴見、総持寺貫首）

顧問
志村慎吾（金沢、金竜院）

参与
柴田敏夫（港北、蓮勝寺）
福永隆昭（南、新善光寺）
横山敏明（中、西有寺）

会長
柳下隆侃（港北、観音寺）

副会長
佐藤泰心（中、大円寺）
森山正城（保土ケ谷、福聚寺）

専務理事
玄野孝善（旭、長昌寺副住）

会計
内野公雄（緑、弘聖寺）

監事
野沢隆幸（鶴見、正泉寺）
吉本十三（南、玉泉寺）

税務専門委員長
山本芳照（神奈川、遍照院）

墓地委員長
佐藤寿応（西、久成寺）

常務理事
国田隆稔（鶴見、宝蔵院）
山本芳昭（神奈川、遍照院）
佐藤寿応（西、久成寺）
佐藤泰心（中、大円寺）
後藤泰心（南、港南、日行寺）
吉川哲雄（保土ケ谷、旭、三仏寺）
滝川覚道（磯子、海照寺）
須方智證（金沢、称名寺）
内田大亮（港北、金蔵寺）
安田一雄（緑、宝徳寺）
北見定賢（戸塚、雲林寺）
藤村宣浄（瀬谷、妙光寺）

中国草堂寺頭彰記

此の度日蓮宗で行はれた第二回訪中鳩摩羅什三蔵法師遺跡顕彰団の一員として四月八日より同廿一日迄の二週間中国に参りました。中国旅行はこれで前后五回目でした。十三日午前八時半旅館西安賓館を出発、右方に大鷹塔を見、大鐘楼堂の元を右折しハイヤー四台、バス二台にて日本仏教会々長、池上本門寺貫首金子日威猊下を中心に長安草堂寺に向いました。一昨年は確か一時間半位でついたのですが今年は随分ゆっくりで十時十分過に到着しました、何もかも少年兵達に奪ばれて何もなかった本堂の中の二本柱は真赤に塗られ、金色の釈尊像の前に本宗で上げた羅什三蔵の御像が坐っています。五具足も飾られお堂の前上方には白色四ツ紋の大幔幕が張られ、その正面には逍遙三蔵と書かれた額が上っていました。あとで聞いた事ですが此の四文字は趙撲初先生の筆である由でした。玄題三唱の後堂内左方の側室に入りせまい所で四十人程の着替えが始まりました。十時半堂前中央より左側に日本人五十四名が居並び、右方中国側の僧侶が進んで堂内に入り読経が始まりました。昨夜の夜食会場で同席した三十七、八才位の僧が中央右に立ち木魚を打っていました。沈着いたよい音色でした。

大導師は北京広済寺の巨賛住職で四十人余り、中国の僧侶が左右に並んで読経していましたが、七十七、八才になっている草堂寺の住職の姿が見付りません。もう亡くなったのかと思いました。中国側の法要が終り本宗の番となり私の前面導師部は中央に進み、読経後左端の修法師が進み出て開眼修法に移り大導師慶讃文、唱題中に開眼作法が終り回向、四誓、奉送にて式は終了しました。よいお天気にて我々の如法衣も少し暑い位の陽気にて、中国側のあと本宗の順にて挨拶の後什師の墓前法要に参りました。一昨年参った時写真を撮ろうとした時、百元出さねば写真はだめだと云はれた所です。こんどはそんな事はなく扉は開かれ高い十三階の塔の前にはお盛物が供へられ、十分写真もとれました。その左後方の八尺四方位の亭の後にある羅什師在世の折から使はれていた泉水のある所を見て又本堂の所に戻りました。すると我々の後からついてきた中国側の僧侶の最后の所にあの老尼がいました。此の寺の住職が何だって此の四十余人の一番後からついているのかと思い駈けよって話しかけましたが、勿論わからない様子でした。五十元入りの状袋は喜んで受けサヨナラサヨナラと云っていました。よいお天気に恵まれ草堂寺に別れを告げ西安に帰りました。その夜の晩餐会に彼の老尼も杉田妙法寺様の横に坐っていましたので名前を聞くと円照草堂寺住、七十九才と書いてくれました。やっぱり草堂寺の住職です。あの後の四十余人の僧侶達は北京、西安各地から来た人達でした。晩餐会が終り中国の人々が先に帰りますので、あの円照老尼に向い、此の老尼があの草堂寺の住職なんだ、唯一人であの寺を守っているんだと叫んで皆と共に拍手して送ったのですが、どれだけの人々に此の事がわかったでしょうか。甚だ疑問です。

円照尼は七十九才であり乍ら、歯は一本も欠けず、よい歯でした。甘いものは全然食べず、中国の僧は酒類、ぜいたくなものはいけない、妻帯はいかんときめられている為、若い僧は一人も居りませんでした。その人達と共に我々が輪袈裟をかけた儘で御馳走を食べたのは慚愧に耐えぬ思いです。我々と同席して居乍ら、自分達は人参ごぼう豆等の別のお皿のものを食べていました。

以上

（横浜市仏教連合会副会長）

北田隆海師

緑区小山町六七七―九
真言宗　観護寺住職　北田隆海

師はかねてより四大不調にて療養中のところ去る三月十六日五十五才をもって遷化された。

本葬は四月十八日午后一時より執行された。

師は緑区仏教会長をつとめ緑区仏教会の為、多大の尽力があった。後任住職には長男北田智昭師が就任された。

事務日誌

56・7・30	県慰霊堂奉仕活動 西区仏教会
56・7・31	墓地問題の件で横浜市へ陳情
56・8・4	三役会の開催・於西有寺
56・11・2	三役会の開催・於西有寺
56・11・5	県慰霊堂奉仕活動 磯子区仏教会
56・11・27	税務研究会に出席
56・11・28	於西有寺 文化講演会の開催
56・12・4	於西有寺 常務理事会・理事会の開催
56・12・17	三役会の開催　於桂月有寺
56・12・23	三役会の開催　於鶴見・宝蔵院
57・2・2	三役会の開催　於鶴見・宝蔵院
57・2・5	県慰霊堂奉仕活動 港北区仏教会
57・2・19	県仏青行事に参加 於県民ホール
57・3・29	三役会の開催　於大円寺
57・4・5	県慰霊堂奉仕活動 金沢区仏教会
57・4・13	三役会の開催　於観音寺
57・4・23	三役会・常務理事会・理事会の開催　於西有寺
57・6・2	三役会・市仏連第九回総会の開催　於西有寺
57・6・6	釈尊奉賛会第三回総会に参加協力
57・6・2	記念講演会の開催 於西有寺
57・6・14	三役会の開催　於西有寺